

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 1	都市デザイン課	都市計画・建築グループ
新規・継続	継続	

事務事業名	水産物供給基盤整備県工事負担金事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-24	安定的な水産業経営の実現					
	関連施策名 (施策コード)	III-8-15	防災・減災のための整備					
事業内容 (経緯)	水産資源の維持、増大を図る為の漁港整備であり、今年度は東深江漁港(久保浦地区)の防波堤新設工事(L=35m)に対する負担金をとなります。							
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値
	①	進捗率(漁港整備計画)	計画に対する改良延長 (累計)	%	35	43	52	62
	②							
	③							
	④							
	事業対象	深江地区(柿ノ浦、久保浦、笠場、破磯地区漁業関係者)	成果	東深江漁港においては漁船の安全確保につながりました。				
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H31 計画値
		荒天時係留漁船等隻数	地元船隻数-他港への避難船隻数+他港からの避難船隻数	隻	60	60	60	65

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	23,921				23,000		921

評価の視点	評価	判断基準	理由
必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	東深江漁港は平成16年10月の台風で甚大な被害を受け、消波施設の整備が地区漁業者及び住民より切望されています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	漁船の安全な係留施設の確保、漁業者の安全な生産活動のため有効な事業です。また荒天時の泊地の静穏が保たれることにより、作業時間の短縮が図られ、もって漁家収入が期待できます。
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	県営事業であり、事業費の15%と負担が軽減されており、また人件費もほとんどかかりません。
事業の問題・課題	事業が長期化しており、地元より早急な事業の完了が求められています。		
前年度の改善案	県工事の負担金ですので特にありません。		
具体的な改善案	地元地区民と必要最小限の工事を再検討し、事業実施を行っている県と協議を行います。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	県代行により実施している事業であり、早期完成に向け継続する必要があります。
------	---------------	----	---------------------------------------

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 2	都市デザイン課	都市計画・建築グループ
新規・継続	継続	

事務事業名	泊ヶ内漁港施設機能強化事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-24	安定的な水産業経営の実現					
	関連施策名 (施策コード)	III-8-15	防災・減災のための整備					
事業内容 (経緯)	台風等の高波の被害を防ぐために護岸、防波堤の嵩上げ及び消波ブロックの設置を行います。平成29年度は防波堤の嵩上げL=80mの整備及び消波ブロック557個を設置しました。							
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値
	①	漁港施設の整備率	計画に対する整備率 (累計)	%	14	22	33	42
	②							
	③							
	④							
事業対象	泊ヶ内地区漁業関係者		成果	台風等の高波被害からの安全対策及び機能強化につながりました。				
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	漁港施設の整備率	計画に対する整備率(累計)	%	14	22	33	42	66

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	122,057		59,654	23,861	36,200		2,342

評価の視点	評価	判断基準	理由
必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	台風等の自然災害に強い漁港施設の整備が、地区漁業関係者より要望されています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	漁船の安全な係留施設の確保、漁業者の安全な生産活動のために有効です。
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	事業費が高いため、経済性を最優先に考え事業を遂行していく必要があります。
事業の問題・課題	全体事業費が高いことから、完成が伸びることが懸念されます。		
前年度の改善案	コストが縮減できる工法の検討を行います。		
具体的な改善案	コストが縮減できる工法を検討し、事業費の圧縮を図ります。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	事業の長期化により事業費の高騰が懸念されますが、漁業振興や地区的安全確保には必要な事業であり継続して実施していく必要があると考えます。
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 3	都市デザイン課	都市計画・建築グループ
新規・継続	新規	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名	海岸保全施設整備事業						新規・継続	新規																																														
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	III-8-16	公共施設の耐震化・防災施設整備						ソフト・ハード	ソフト																																												
事業内容(経緯)	臼杵市が管理する海岸保全施設は築後30年を経過している施設が大半をしめています。適切な維持管理を進めていくため、海岸保全施設の損傷度の調査ならびに施設の長寿命化計画の策定を行います。																																																					
行動指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>説明・算式・引用</th> <th>単位</th> <th colspan="3">実績の推移</th> <th>H29 実績値</th> <th>H31 計画値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>漁港海岸の長寿命化計画書作成 地区数</td> <td>計画作成を行う累積築数 (累計)</td> <td>地区</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	H26	H27	H28					漁港海岸の長寿命化計画書作成 地区数	計画作成を行う累積築数 (累計)	地区	—	—	—	2	4	②								③								④							
指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値																																															
H26	H27	H28																																																				
漁港海岸の長寿命化計画書作成 地区数	計画作成を行う累積築数 (累計)	地区	—	—	—	2	4																																															
②																																																						
③																																																						
④																																																						
事業対象	中津浦漁港海岸、上浦(臼杵)漁港海岸、佐志生漁港海岸、坪江漁港海岸	成果	海岸保全施設の長寿命化につながります。																																																			
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値																																														
	漁港海岸の長寿命化計画書作成 地区数	長寿命化計画書作成を行う 漁港海岸地区数 (累計)	地区	—	—	—	2	4																																														

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	10,979		5,000	2,000			3,979

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	施設の長寿命化を行うことにより漁業者の安全・安心を確保することができます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	委託費用が大きいため、年間に計画策定できる漁港海岸数が制限されます。		
前年度の改善案			
具体的な改善案	施設の調査項目を見直すことで調査費用の削減を図ります。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	漁港施設の更新には多額の費用が必要であるから、本計画の策定により効率的な更新に繋げていく必要があります。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 4	都市デザイン課	都市計画・建築グループ
新規・継続	継続	

事務事業名		深江地区渡船施設整備事業						新規・継続	継続		
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	IV-11-24	安定的な水産業経営の実現						ソフト・ハード	ハード
事業内容 (経緯)		港の港内の静穏度を確保し、船の乗り降りが安全に行えるようにするための整備を行います。清水漁港において防波堤の越波を軽減させるため消波ブロックを50個設置しました。									
基本項目	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		① 漁港施設の整備率		計画に対する整備率（累計）		%	31	34	38	41	49
		②									
		③									
		④									
	事業対象	深江地区漁業関係者			成果	漁港内の安全確保の向上につながりました。					
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		漁港施設の整備率		計画に対する整備率（累計）		%	31	34	38	41	49

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	5,867				4,900		967

評価の視点	評価	判断基準			理由			
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か			台風等の自然災害に強い漁港施設の整備が、地区漁業関係者より要望されています。			
有効性	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない			台風等の自然災害に強い漁港施設の整備が、地区漁業関係者より要望されています。			
	効率性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか			漁船の安全な係留施設の確保、漁業者の安全な生産活動のために有効です。			
効率性	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない			漁船の安全な係留施設の確保、漁業者の安全な生産活動のために有効です。			
	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか			事業費が高いため他の公共団体等と連絡を密に取り、不要となったブロック等の再利用を行い、事業実施を円滑に進めます。			
事業の問題・課題	漁港施設の改修は事業費が高く、単年度での改修が困難です。							
前年度の改善案	他事業により不用となった消波ブロックを再利用し、事業費の軽減を図ります。							
具体的な改善案	大分県事業で不用となった消波ブロックを再利用できるよう、大分県と協議し、事業費の軽減を図ります。							

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	漁港施設の改修費用は高額であることから、計画的に継続していく必要があります。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 5	都市デザイン課	都市計画・建築グループ

事務事業名		臼杵市総合公園整備事業						新規・継続	継続		
総合計画との関連		主要施策名(施策コード)	VI-18-42	公園整備の促進と適正な維持管理						ソフト・ハード	ハード
		関連施策名(施策コード)	III-8-15 V-13-30	防災・減災のための整備 スポーツ環境の充実							
基本項目	事業内容(経緯)	昭和52年度から用地買収を行い、総合公園整備として、これまで、野球場・子ども広場・花見広場・多目的グラウンド・テニスコート・備蓄倉庫などが完成しており、今後は、防災施設整備を行っていきます。 今年度は、多目的広場に照明施設を10基設置しました。									
	行動指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	①	臼杵市総合公園の事業費執行率	累計事業費/総事業費		%	95	95	96	98	100	
	②										
	③										
	④										
	事業対象	市民		成果	夜間の運動の場、レクリエーションの場が確保されます。また、災害時の避難場所として安心・安全が図られます。						
	成果指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
		臼杵市総合公園整備率	整備面積/計画整備面積		%	90	90	94	94	100	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	77,887		7,000	67,900			2,987

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	子どもの遊び場やスポーツ施設の整備は、要望が多く早期完成が望れます。多目的広場に照明施設10基完成したことにより、夜間での運動やレクリエーションを行う事ができます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない		市内外の子どもから高齢者まで多くの方が利用され、災害時は避難場所として安心・安全が図られます。
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか B : 効率的に効果が出ている C : 改善の余地がある C : 効率的に効果が出ていない		市民の運動や休息場所として、また災害時の防災拠点として必要な施設整備を進めながら、既存施設の維持管理を併用して行うため経済性を最優先して事業を遂行していく必要があります。
事業の問題・課題	当初計画から30年以上が経過しており、早期完成が望れます。また、既存施設の更新・修繕が必要となるため利用者が安全に利用できるように適正な管理が重要となってきています。		
前年度の改善案	早期の完成を実行させるために、工事の早期着工を取り組みます。既存施設については計画的な維持修繕を行い、ライフサイクルコストの削減方法について検討を行っていきます。		
具体的な改善案	早期の完成を実行させるために、工事の早期着工を取り組みます。既存施設については計画的な維持修繕を行い、工法について検討し事業費の圧縮を図ります。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	臼杵市総合公園の整備も、地域防災拠点としての整備を残すのみであることから継続して整備する必要があります。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 6	都市デザイン課	住宅施策
新規・継続	継続	

事務事業名	市営住宅管理代行業務					新規・継続	継続		
	ソフト・ハード	ソフト							
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VII-18-43	快適な住環境の確保						
	関連施策名 (施策コード)								
基本項目	事業内容 (経緯)	市営住宅にかかる設備保全業務のほか、条例に基づく事務手続きや徴収業務等の管理運営業務全般に関し、平成26年10月より大分県住宅供給公社へ管理代行として業務委託しています。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
	①	住宅使用料の徴収率	収納額/調定額	%	99	100	100	100	
	②								
	③								
	④								
	事業対象	市営住宅の入居者	成果	臼杵市営住宅管理センターという専属部署の設置及び業務委託により、住民サービスの向上に取り組むとともに、事務の効率化が図られています。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
		市営住宅の入居率	入居率	%	93	93	91	94	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	38,956					37,199	1,757

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	公営住宅法に基づく公平公正な管理運営を目指すため、他市町村での管理実績もある住宅供給公社へ業務委託をすることは必要と考えます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	専属部署での充実した管理運営体制構築によって事務の適正化・効率化が推進され、徴収率や入居率の水準確保について有効に機能している状態です。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地があややある C: 効率的に効果が出ていない	徴収率や入居率の極限向上を実現するには、更なるコスト上昇が想定されるため、効率的な手法の検討余地があると考えます。	
事業の問題・課題	社会情勢の変動や法改正等による特殊事例の対応や、住棟の長寿命化改修、他業務との連携が必要な場合など、結果として大分県住宅供給公社のみでは対応困難なことが多く、委託による市の人役コスト削減効果が限定的なものとなってしまうことが課題です。		
前年度の改善案	(昨年記載なし)		
具体的な改善案	大分県住宅供給公社が可能な限り自律的に機能するように業務区分整理等の協議を進めます。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	大分県住宅供給公社へ管理代行し、徴収率・入居率等も向上していることから、現状のまま継続したい。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 7	都市デザイン課	住宅施策
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	市営住宅長寿命化事業								
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VII-18-43	快適な住環境の確保						
	関連施策名 (施策コード)								
基本項目	事業内容 (経緯)	老朽化した市営住宅について、居住環境の改善や耐用年数の延伸を目的に、建物の長寿命化工事を行いました。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		① 長寿命化工事を行った住宅戸数	工事を行った戸数（累計）	戸	6	14	20	60	
		②							
		③							
		④							
	事業対象	市営住宅の入居者	成果	都松住宅3棟6戸ほか市営住宅の機能向上が図られました。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		長寿命化工事実施率	実施済戸数/計画戸数	%	7	23	33	100	

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	29,985		9,862			19,538	586

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	老朽化した住宅の居住環境改善の観点からも必要性は高いと考えます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない	屋根、外壁等の改修により建物自体の長寿命化が可能となります。	
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない	既存の市営住宅を補修活用することで、行政資源の活用効率向上が期待できます。
事業の問題・課題	長寿命化計画の適切な実施に必要となる経費が高額なため、国費・市費問わずその財源確保が困難となっていること、およびそれを起因とした財源不足により長寿命化改修が先送りされ、市営住宅等の老朽化が進んでしまっていることの解消が課題です。		
前年度の改善案	市営住宅長寿命化計画の適切な時点での見直しを図る必要があります。		
具体的な改善案	見直しを行った「臼杵市公営住宅長寿命化計画」を基として、遅れている長寿命化補修の計画を練り直して実施するとともに、国庫補助金の種類と要望方法の精査に労力を割くことで財源確保に努めながら、建替えが必要とされる住宅団地についても適正な検討を進めます。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	長寿命化計画により実施することで、ライフサイクルコストの低減につなげていきます。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 8	都市デザイン課	都市計画建築グループ
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	臼杵港 港湾改修工事県工事負担金							新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-17-40	港湾の整備と活用						
	関連施策名 (施策コード)								
基本項目	事業内容 (経緯)	臼杵港港湾整備計画に基づき、第1期整備工事（下り松地区にフェリー基地を整備する県工事事業）に対する負担金です。平成32年度の完成を目指し、本年度は、耐震護岸の基礎工事の実施に伴う負担金となります。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		① 第1期改修工事の進捗率	工事進捗率	%	61	69	76	79	93
		②							
		③							
		④							
	事業対象	海上交通の利用者	成果	耐震護岸の基礎工事が進み、来年度は基礎工の仕上げを行い上部工事に移行することができます。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		第1期改修工事の進捗率	工事進捗率	%	61	69	76	79	93

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	83,242				83,200		42

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	臼杵港は、四国方面の貨物輸送の中核を担うとともに、広域的な人的交流の機能も有しています。また、耐震岸壁やへり発着が可能な埠頭は、大規模災害対応可能な規格となっています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	四国や関西、また、東九州道の整備により南九州方面から本市を訪れる方の誘客の観点から、機能的なフェリーバース等の整備は、基幹アクセスとしての海上交通の構築に有効です。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	地方港湾として、本市への経済的な受益性が低いにも関わらず、港が在する自治体として重要港湾がある自治体よりも高い割合で事業費負担があり、公平性に疑問が生じます。
事業の問題・課題	フェリー航路を利用する大型貨物車両等により、市街地沿線地域の振動・騒音問題の外、交通安全や道路損傷が激しくなる等の問題があります。また、観光等で下船した利用者のうち、本市での観光割合が非常に少ないとから、臼杵市が、中継地ではなく、より長時間の滞在地となるよう創意工夫が必要になります。		
前年度の改善案	地域住民への事業への理解並びにアクセス道路及び緑地帯等を含めた新臼杵港の活用に係る協議を県と一体となって進める必要があるため、利活用検討に関する協議会の設置が急がれます。		
具体的な改善案	本年度、新臼杵港活用推進協議会及び幹事会を立上げ、新埠頭背後地の緑地等を地域の活性化や憩いの場等で、より活用される施設となるよう協議しています。また、港湾を取り巻く周辺のアクセス道路や案内看板等についても、市と県で連携し、協議を進めています。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	新しい港は、九州の東の玄関口としても重要な港であるとともに、市民の憩いの場としても期待されていることから早期完成に向けて継続する必要があります。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 9	都市デザイン課	住宅施策
新規・継続	継続	

事務事業名		空き家対策事業						新規・継続	継続
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	VII-18-43	快適な住環境の確保					
関連施策名 (施策コード)		II-6-12	「うすき暮らし」の推進						ソフト
事業内容 (経緯)		指標名	説明・算式・引用	単位	H26	H27	H28	H29 実績値	H31 計画値
行動指標	① 空き家バンク物件登録数	空き家の登録件数（累計）	件	24	57	91	133	150	
	② 老朽空き家の解体件数	解体補助金の利用件数（累計）	件	4	10	17	23	39	
	③								
	④								
事業対象	市民	成果	利用可能な空き家の活用及び危険な空き家の除去が進み、市民の安全、快適な住環境の確保が可能となりました。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	H26	H27	H28	H29 実績値	H31 計画値	
	空き家バンクの成約件数	空き家バンク制度を利用して利活用が決まった家屋の件数（累計）	件	3	21	43	61	85	

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	13,868		3,310	357			10,201

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	管理が行き届かない空き家は臼杵市全域で増加しており、防犯・景観の観点からも地域への影響は大きく、市民の関心も高い状況であり、今後空き家問題が社会的問題にならないようさらなる推進が必要です。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない	空き家バンク制度の登録物件、成約件数共に増加しているが、未だ活用できていない空き家も多く、更なる制度の周知が必要です。	
	効率性 行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない	空き家の実態調査や空き家バンクの運営等、より効果的、効率的に実施できる体制づくりが必要です。	
事業の問題・課題	空き家対策に係る諸制度の周知をさることながら、個人の財産となる空き家等の建物について、所有者等の管理責任を第一義にとらえ、その周知を図っていく必要があります。また、空き家対策特別措置法に基づく「臼杵市空き家等対策計画」を実施するために組織の整備や条例整備は急務です。		
前年度の改善案	遅くともH29年12月までに「空き家等対策計画」を策定し、空き家対策の計画的推進、特定空き家等への対策を本格的に推進していくまです。また、空き家活用を促進するため空き家バンク制度をより使いやすい制度とするための補助事業等の見直しを進め、現況把握と紹介について専門員を配置します。		
具体的な改善案	「臼杵市空き家等対策計画」に基づき空き家問題を総合的かつ計画的に実施するため「臼杵市空き家等の適正管理に関する条例」を「空き家対策特別措置法」に照らし合わせ変更するとともに、定着してきた空き家バンク制度を更に推進するため、全国空き家バンクの活用や利便性の向上、持続可能なシステムを目指して更なる見直しを行います。		

課長評価	重点化する（重点化）	理由	移住定住施策としての空き家の利活用また、空家の増加による老朽危険家屋の除去等は市民生活環境の安全・安心の確保から重要と考えます。
------	------------	----	--

事務事業名		街なみ環境整備事業					新規・継続	継続	
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	VI-18-41	まちづくりの計画的推進					
		関連施策名 (施策コード)	III-8-15 VII-21-51	防災・減災のための整備 救急体制・消防力の充実					
基本項目	事業内容 (経緯)	歴史的町並み景観の保全を目的に廃止した準防火地域を含む城下町周辺の良好な景観形成と防火対策の両立を図ります。中心市街地においては木造建屋が密集していることから、防災・減災の取組としてまちかど消火栓を整備し、地域の防災力の強化に努めます。また観光の主要ルートである二王座歴史の道の見通しの確保と安全性の向上のため甚吉坂の小公園の整備を行います。小公園の整備(完成)及びまちかど消火栓(8/20 基)の設置							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値
		① まちかど消火栓設置数			基	-	-	-	8 20
		② 小公園整備事業費執行率	累計事業費/総事業費		%	-	-	37	100 100
		③							
		④							
	事業対象	市民(中心市街地)・観光客		成果	小公園の整備により、町並み景観の向上・休憩の場の確保ができました。また、まちかど消火栓の整備により、地域の防災力の向上につながりました。				
	成果指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値
		街なみ環境整備事業費執行率	累計事業費/総事業費		%	-	6	25	75 100

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	便用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	51,698		23,750				27,948

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	小公園の整備は、家屋の老朽化により通行する人に対する危険性、また景観面も損ねているため良くないといった声がありました。老朽家屋を除却し見通しが良くなり、二王座歴史の道の歩行気に合ったものとなりました。 まちかど消火栓の整備については、歴史的な町並み保全のために準防火地域を廃止した城下町地区的防火性能を向上させるという意味で必要な取り組みです。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	小公園の整備による効果は、二王座歴史の道を通る観光客等の回遊性の向上だけでなく、景観面・安全面が向上したこと、住民の憩いの場ができるなど複数挙げられます。 まちかど消火栓の整備は、建築物が密集している市街地(旧準防火地域)における初期消火活動に有効な設備です。
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	両事業とも、景観面・安全面・周遊性・利便性など複数の課題への対応を、街なみ環境整備事業(国庫補助)を活用しながら行なっています。 まちかど消火栓については、整備箇所に応じて、鋼製のボックスと木製のボックスを選択し配置することにより、コストダウンを図りました。
事業の問題・課題	来年度以降も整備継続予定のまちかど消火栓については、私有地への設置があるため、引き続き地権者との個別協議により合意を得る必要があります。また、私有地への設置のため景観面にも配慮する必要があります。		
前年度の改善案	まちかど消火栓の設置に関する条件面などについて、地元の区長等を交えて早期に地権者協議を行なっていきます。		
具体的な改善案	今年度からの継続事業のため既に地権者や地元区長への説明は済んでいるが、今年度施工した実例を示したうえで早期に地権者の同意を得て事業を実施していきます。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	まちかど消火栓の整備は、市街地における初期消火活動に有効な設備であることから継続して整備する必要があります。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 11	都市デザイン課	住宅施策
新規・継続	継続	

事務事業名		定住促進事業補助金（移住者居住支援事業）						新規・継続	継続
総合計画との関連		主要施策名（施策コード）	II-6-12	「うすき暮らし」の推進					
関連施策名（施策コード）		VI-18-43	快適な住環境の確保						
基本項目	事業内容（経緯）	平成27年度からの事業で、長期（5年以上）にわたり臼杵市に定住する意思のある移住者に対し、住宅の購入や家賃補助、引越し費用の補助など、移住に伴う住居に係る初期費用等を助成する制度です。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	制度利用移住世帯数	制度を利用した世帯数（累計）	戸	H26	H27	H28	265	465
	②								
	③								
	④								
	事業対象	移住者（定住の意思を示す転入者）	成果	定住人口の増加に寄与し、人口減少率の低減、地域活性化の一助となっています。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		移住者数	制度を利用して転入した移住者の総数（累計）	人	H26	H27	H28	635	1,100

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	2,969,538			3,560	17,500		2,948,478

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	定住人口の増加につながる本事業は、総合計画の重点プロジェクトに位置づけられる「移住・定住」施策の目的に適したものであり、その必要性は高いと思われます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない		転入者、定住者の増加につながるものとなっています。
	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない		定住人口の増加は地域の活性化やにぎわいの創出にもつながるもので効率性は高いと思われます。
事業の問題・課題	移住希望者に対する効果的な周知方法を検討する必要があります。		
前年度の改善案	地場企業や農業団体など、移住者との関わりがある関係団体に、補助制度の周知を行っていく必要があります。		
具体的な改善案	他の部署と連携し、時代のニーズにあった補助制度の周知と見直しを行っていきます。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する（重点継続）	理由	人口減少対策として重点的に取り組んでいる事業であり効果も出ている。
------	------------------------	----	-----------------------------------

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 12	建設課	用地管理グループ
新規・継続	継続	

事務事業名	地籍調査事業				新規・継続	継続		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-19-46	情報基盤の整備				ソフト・ハード	ソフト
	関連施策名 (施策コード)							
基本項目	事業内容 (経緯)	地籍調査事業とは、登記簿・字図等を基に、一筆ごとの土地について正しい位置・境界・番地・地目・所有者・面積等を明確にし、新しい地図（地籍図）と台帳（地籍簿）を作成する業務です。臼杵地域は平成14年から、野津地域は平成7年から事業を実施しています。 ◆臼杵地区：大字市浜の一部①測量調査◆野津地区：大字白岩の一部 ①一筆地調査②地籍図及び地積簿の作成（閲覧）						
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値
		① 地籍調査実施面積 (事業計画面積275.42km ²)	調査実施面積	km ²	H26	H27	H28	38
		②						
		③						
	成果指標	事業対象 市内全域の土地 (国有林等、例外あり)	成果	◆臼杵地区：大字市浜の一部 测量調査(D・F・G工程) O. 11 km終了 ◆野津地区：大字白岩の一部 ①一筆地調査(E工程) O. 28 km終了 ②地籍図及び地籍簿の作成（閲覧） O. 76 km終了				
		指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値
		地籍調査達成率（進捗率）	調査済面積÷計画面積	%	H26	H27	H28	14

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	26,066		9,500	4,750			11,816

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	本調査により正確な地図ができ、境界復元が可能になります。また、境界紛争予防効果も期待されます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	土地所有者に関する権利が明確に保全されると共に、現地と公団が一致し個人財産が保護されます。	
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	地籍調査実施地区において公共工事等を行う場合、境界確認業務等を省略できるので、未実施地区に比べて低コストで行えるメリットがあります。
事業の問題・課題	公団と現地の状況の相違・境界立会時点での隣接地所有者との主張の相違・現地立会人の世代交代による障害(境の認識不足)により、筆界確認が困難な場合があります。また、長期間にわたる継続事業でもあり、早期事業完了に向けて、国・県等の対応が急がれます。		
前年度の改善案	筆界未定（土地の境界が決まらない状態）をなくすために、地籍調査推進委員に立会をお願いして、境界確認がスムーズに行えるようにします。		
具体的な改善案	地元区長に、地域の土地の経緯等になるべく精通している方を推進委員に推薦して頂くよう、例年依頼しています。土地歴の浅い地権者に参考情報を提供して頂くことで、筆界未定件数の減少を目指します。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	経済効果がただちに現れるものではありませんが、土地の確定は公益や権利の確定につながります。調査が完了するまでかなりの年数を要しますが、今後も継続して事業を実施したいと思います。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 13	建設課	土木グループ
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	工場適地周辺整備事業（市道熊迫線）					新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名（施策コード）	IV-10-20	地場企業の育成・企業誘致				
	関連施策名（施策コード）	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網				
事業内容（経緯）	ゴルフ場建設予定地として所有していた小郡カントリーより、臼杵市に譲渡されたことから「野津東部地区工場適地」として位置づけられ、その周辺道路整備を目的として市道熊迫線の整備を行っています。						
行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値 H32 計画値
①	整備済延長（単年度）	事業費による換算延長	m	23	60	64	50 100
②							
③							
④							
事業対象	誘致企業及び道路利用者	成果	工場誘致のためのアクセス道路等周辺整備を行うことで、産業・経済の発展が見込まれます。また、近隣に居住する方の地域間の交流や生活範囲の拡大が図られます。今年度は全体計画延長のうち37.2%完了しました。				
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値 H32 計画値
	道路改良率	整備済延長／全体計画延長	%	496/1800 =28%	556/1800 =30.9%	620/1800 =34.4%	670/1800 =37.2% 1000/1800 =56.0%

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	12,950				11,100		1,850

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	若者の定住促進を促進するためにも企業誘致は必要と考えられます。そのためには、周辺道路整備は必需であり事業の必要性は高いと言えます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない		企業誘致を行うためにも円滑な流通経路の整備は必要であり将来的な効果が期待できると考えます。
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない	道路整備と平行して水道管の更新も併せて行っていくよう効率的な整備を行います。
事業の問題・課題	現在、用地の取得を計画的に行っているが、一部難航している土地もある。今後とも継続的に交渉を行いたい。		
前年度の改善案	用地取得で地権者との交渉が難航しているが、地権者が抱えている問題等の話を聞きながら進めています。		
具体的な改善案	用地取得が完了していませんが、少しづつ工事を進めていき、用地の取得が終了していない土地については、今後とも所有者と交渉を行っていき、事業の進捗を図りたいと考えています。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	企業が決まっていない中での道路改良は住民の意識もすこし薄いようです。しかし企業と住民が共生するための一つの事業として重要です。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 14	建設課	土木グループ
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	交通安全施設整備事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VII-21-53	交通安全対策の推進					
	関連施策名 (施策コード)	VII-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網					
事業内容 (経緯)	市内の市道は狭隘（きょうあい）でカーブが多く、且つ見通しの悪い交差点が多いなど、通行に危険な箇所が多くあります。そのため交通安全施設に対する要望は毎年多く寄せられているのが現状です。本事業は、その要望に基づきカーブミラー、ガードレール、ガードバリアフリーアクセス等の交通安全施設を設置するものです。							
行動指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値
	① 設置箇所数	施設の設置を行った箇所数		箇所	29	25	39	22
	②							
	③							
	④							
事業対象	道路利用者	成果	要望箇所の内、22箇所に交通安全施設を設置することで、当該箇所での通行がスムーズになり、交通の安全性を向上させることができました。					
成果指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移			H31 計画値
	安全性の向上	安全性が向上したか			○	○	○	○

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	12,103						12,103

評価の視点	評価	判断基準	理由
必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	地区からの要望も多く、安全に安心して通行できるように整備するものであり、直接生命に関わる施設整備であるため、必要性は高いです。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	交通事故の防止を図り、併せて道路交通の円滑及び安全性の向上につながっています。
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか	A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	道路の線形、状態を確認した上で、必要最低限の規格の交通安全施設の設置を行ったり、再利用できる交通安全施設についてできる限り再利用を行っています。
事業の問題・課題	最近は、老朽化に伴う交通安全施設の修繕要望が多く、新規要望の対応が遅れ気味となっています。		
前年度の改善案	今後は、新規や老朽化対策の双方で緊急性の高い箇所から事業を実施していく必要があります。		
具体的な改善案	今後は、新規や老朽化対策の双方で緊急性の高い箇所から事業を実施していく必要があります。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	毎年要望があり、少しでも通行の安全確保及び事故の防止が出来るように施設の設置等、続けて行きたいです。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 15	建設課	土木グループ
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	市道新設改良事業（地方道路整備事業）						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名（施策コード）	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網					
	関連施策名（施策コード）	III-8-15 VII-21-53	防災・減災のための整備 交通安全対策の推進					
事業内容（経緯）	合併後の新市における交通体系について、幹線道路に接続する地域内の道路整備を行うことによって、市内全域の交流を促進し一体感の確立と地域活性化を図ります。旧臼杵・野津地域とともに、平成17年度より合併特例債を活用して事業を進めてきましたが、平成27年度より地方道路整備事業により地域間バランスを考慮しながら市道の整備を行っています。（全体計画延長22,557m）							
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値
	①	整備済延長（单年度）	事業費による換算延長	m	1,079	753	400	144
	②							
	③							
	④							
事業対象	道路利用者		成果	今年度は144m整備を実施し、継続して整備に取り組んできた1路線について全線供用開始を図ることができた。				
成果指標	指標名		説明・算式・引用	単位	実績の推移			H31 計画値
	道路改良率		累計整備済延長／全体計画延長	%	15951/225 57 =70.7%	16704/225 57 =74.1%	17104/225 57 =75.8%	17248/225 57 =76.5%
								18936/225 57 =83.9%

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	22,115				16,600		5,515

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	合併に伴い市内の移動距離が長くなることから、地元からの要望も強く、整備を行うことにより利便性や快適性の向上が図られ、ゆとりや交流が深まり地域の活性化に役立ちます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない	地域内の市道は、急カーブで幅員の狭い路線が多く、緊急車両の通行にも支障がありました。改良することにより防災面での効果も向上しています。	
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない	地域間を連絡する幹線市道等を除き、地域内の市道の拡幅は、工法検討によりコスト縮減を図っています。また、用地を寄付して頂いて事業を実施しており、効率よく整備を行っています。	
事業の問題・課題	現在、市道は1,365路線あり、幅員が狭い等で日常生活に支障を及ぼしている路線も数多くあります。地区から多くの改良要望がありますが、十分な対応ができないのが現状です。		
前年度の改善案	用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早く完成させたい。		
具体的な改善案	各路線の特徴を生かした整備を行うことで、コストの縮減化を図り、少しでも多くの市道整備ができるよう事業を進めていきます。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	地区住民にとって利便性や安全性の向上は図れるため、引き続き事業を実施していきたい。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 16	建設課	土木グループ

事務事業名	市町村急傾斜地崩壊対策事業			新規・継続	継続		
	主要施策名 (施策コード)	III-8-15	防災・減災のための整備				
総合計画 との関連	関連施策名 (施策コード)			ソフト・ハード	ハード		
基本項目	事業 内容 (経緯)	県事業で対象とならない1戸以上5戸未満の区域において、急傾斜地の土砂災害を未然に防止し、住民の人命や家屋を守るために、対策工事を実施します。					
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移	H29 実績値	H31 計画値
		① 累計整備戸数	平成13年度からの累計	戸	15	19	21
		②					
		③					
		④					
	事業 対象	急傾斜地の人命・家屋	成果	危険地域の崩落防止工事を行うことで、土砂災害等を未然に防止し、住民の生命と財産を守ることができました。			
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移	H29 実績値	H31 計画値
		整備率（要望戸数は増加している）	整備戸数/要望戸数	%	15/45 =33.0%	19/50 =38.0%	21/55 =38.0%
					22/64 =34.0%	22/64 =34.0%	32/64 =50.0%

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	9,716				2,850	3,200	1,071
							2,595

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	地元からの要望も強く、安全・安心な生活環境を整えるには整備の必要性は高いと考えます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	急傾斜地の崩壊を防ぐことにより、市民の安心安全につなげることができました。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	経済性を考慮した工法検討を行うことで、コストに対し合った効果を得ることができました。

事業の問題・課題	急傾斜地で崩壊危険性のある箇所は、要望箇所以外にも多くあり、十分な対策ができていないのが現状です。
前年度の改善案	これから行う箇所について事業費が足りない箇所も出てくる恐れがあるため、条例の見直しが必要と考える。
具体的な改善案	緊急度及び優先度を考慮し対応をすすめ、対策工事が完了していない箇所においては、避難の指標となる県の安全安心メール等の活用を呼びかけ、ソフト面での充実を図る。

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	県と市が85%の補助を行い、1戸以上の急傾斜地崩壊対策を行っているが、市の財政負担も大きいため、今後、県補助の増額要望を行い、事業を進捗していく必要がある。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 17	建設課	土木グループ
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	生活環境改善事業						新規・継続	継続	
	主要施策名 (施策コード)	VII-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網						
総合計画 との関連	関連施策名 (施策コード)	VII-21-53	交通安全対策の推進						
	事業 内容 (経緯)	これまで里道、水路の管理は地区にお願いをしていましたが、補修に対する要望があつても、制度上予算化が困難であつたり、担当部署が曖昧で実施できにくかったものがあつたため、生活に密着した要望に対し機動的かつ柔軟に対応するため、生活環境改善事業として里道・水路の補修を実施しています。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	
	①	事業実施箇所数	実施箇所数	箇所	6	6	9	8	
	②								
	③								
	④								
基本項目	事業 対象	要望箇所の住民・利用者	成果	今年度は要望箇所のうち8件について事業実施ができました。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H31 計画値	
	満足度		受益者の満足度	%	100	100	100	100	
								100	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	6,639						6,639

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	里道、水路の補修要望は年々増加傾向にあり本事業は今後も継続して必要です。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	これまで整備困難であった里道、水路の補修が可能になります。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	限られた予算の中で整備の優先度を考慮し効率的に整備を進めています。	
事業の問題・課題	里道、水路に対しての要望が多く対応しきれない状況があります。		
前年度の改善案	現地調査により、施設の危険性や利用頻度等を考慮し整備を進めていきます。		
具体的な改善案	現地調査により、施設の危険性や利用頻度により優先度を定め、効率的に整備を進めていきます。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	高齢化も進む中、里道、水路の補修における地区対応が困難になってきており、今後も必要な事業であると思います。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 18	建設課	土木グループ
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名		社会資本整備総合交付金事業による市道改良事業						新規・継続		継続	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網								
	関連施策名 (施策コード)	III-8-15 VII-21-53	防災・減災のための整備 交通安全対策の推進								ハード
基本項目	事業内容 (経緯)	臼杵市の市道の一部において、幅員狭小・歩道未整備・道路施設の老朽化等により、道路利用者の安全安心が必要とされている路線があります。そこで「社会資本整備総合交付金」を活用して、臼杵市の社会資本の整備を実施し、地域安全環境を整えていきます。(12路線、全体計画延長9,083m)									
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	H29 実績値	H31 計画値
		① 整備済延長(単年度)	事業費による換算延長	m	824	639	865			130	354
		②									
		③									
		④									
	事業対象	道路利用者	成果	交通の流れが円滑になり、歩行者の安全を確保できるとともに、地域間の連携を強めることができ、また、橋梁の補修を計画的に行うことで、災害を未然に防ぐことができます。							
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	H29 実績値	H31 計画値
		道路改良率	累計整備済延長／全体計画延長	%	3801/9083 =41.8%	4440/9083 =48.9%	5305/9083 =58.4%			5435/9083 =59.8%	8158/9083 =89.8%

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	135,918		52,758		75,300		7,860

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	道路利用者の安全を確保し、交通の利便性及び円滑化が図れるため継続して整備が必要です。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		
	A B C	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	道路を整備することで、移動時間の短縮・交通事故の減少などの効果が発揮できています。
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		
	A B C	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	工法検討を行いながら、工事の円滑な実施及びコスト縮減を行っています。
事業の問題・課題	道路整備に伴い、公共用地の取得が必要とされる路線がありますが、計画的に用地取得が進まずに事業の進捗率が停滞している路線も存在します。今後、さらに関係者へ協力をお願いしていく必要があります。		
前年度の改善案	土地所有者へ事業の必要性を理解していただき、適正な価格で用地取得できるよう、親切かつ丁寧な交渉に努めていきます。用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早く完成させていきたいです。		
具体的な改善案	用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早く完成させていきたいです。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	土地所有者の理解をいただき少しづつですが用地取得が進捗しています。今後も引き続き、地区と地区を結ぶ重要な路線等であるため、早い完成に努めていきたいです。
------	------------------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 19	建設課	土木グループ

事務事業名		市道新設改良事業（辺地債事業）						新規・継続	継続
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網					
関連施策名 (施策コード)		III-8-15	防災・減災のための整備						
		VII-21-53	交通安全対策の推進						
基本項目	事業内容 (経緯)	平成20年度より「辺地に係る公共的施設の総合整備計画」に基づき、対象となる地域内の市道について、辺地債事業を活用して道路整備を実施しています。今後も市の財政負担の軽減ができる辺地債事業を活用して地域間バランスを考慮しながら市道の整備を行っていきます。（4路線、全体計画延長5,490m）							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	整備済延長（単年度）	事業費による換算延長	m	308	171	-	66	274
	②								
	③								
	④								
	事業対象	道路利用者	成果	今年度は66mの整備を実施し、前年度できなかった改良工事を再開することができた。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		道路改良率	累計整備済延長／全体計画延長	%	4327/5490 =78.8%	4498/5490 =81.9%	4498/5490 =81.9%	4564/5490 =83.1%	5320/5490 =96.9%

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	9,082				8,400		682

評価の視点	評価	判断基準	理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	地元からの要望も強く、地域内から幹線道路に通じる唯一の道路を整備することは、生活環境を整える上で、必要性が高いと考えます。	
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか		
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	道路整備に伴い、公共用地の取得が必要とされる路線がありますが、計画的に用地取得が進まずに事業の進捗率が停滞している路線も存在します。今後、さらに関係者へ協力をお願いしていく必要があります。			
前年度の改善案	土地所有者へ事業の必要性を理解していただき、適正な価格で用地取得できるよう、親切かつ丁寧な交渉に努めていきます。			
具体的な改善案	用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早く完成させていきたいです。			

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	整備地区が限られたものではありますが、地区住民にとって利便性や安全性の向上が図れるため、引き続き事業を実施していきます。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 20	建設課	土木グループ
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	市道新設改良事業（過疎債事業）							新規・継続	継続							
総合計画との関連	主要施策名（施策コード）	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網													
	関連施策名（施策コード）	III-8-15	防災・減災のための整備													
	VII-21-53	交通安全対策の推進														
事業内容（経緯）	臼杵市の交通体系において、主として基幹的な市道の整備について、市の財政負担の軽減ができる過疎債事業を活用して整備を行っています。（16路線、全体計画延長8,327m）															
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29	H31							
		H26	H27	H28	実績値	計画値										
		① 整備済延長（単年度）	事業費による換算延長	m	733	493	737	568	420							
		②														
	③															
④																
事業対象	道路利用者	成果	今年度は、568mの整備を実施できました。この中には、以前から交渉が難航していた箇所の用地取得及び拡幅整備も含まれています。													
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29	H31								
	H26	H27	H28	実績値	計画値											
	道路改良率	累計整備済延長／全体計画延長	%	4174/8327 =50.1%	4667/8327 =56.0%	5403/8327 =64.9%	5971/8327 =71.7%	7303/8327 =87.7%								

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	124,508				113,700		10,808

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	地域間を連絡する幹線市道で、市の活性化にも整備の必要性は高いと考えます。
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	利用者が、安全に通行でき、さらには移動時間の短縮が図れます。
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか		
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	工法検討を行いコスト縮減化した道路整備により、交通の利便性が向上することは、効率性は高いと考えます。
事業の問題・課題	道路整備に伴い、公共用地の取得が必要とされる路線がありますが、計画的に用地取得が進まずに事業の進捗率が停滞している路線も存在します。今後、さらに関係者へ協力をお願いしていく必要があります。		
前年度の改善案	土地所有者へ事業の必要性を理解していただき、適正な価格で用地取得できるよう、親切かつ丁寧な交渉に努めていきます。		
具体的な改善案	用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早く完成させたい。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	地区住民にとっては利便性や安全性の向上は図れるため、引き続き事業を実施していきたい。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 21	建設課	土木グループ
新規・継続	継続	

事務事業名	道路補修事業							新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網						
	関連施策名 (施策コード)	VII-21-53	交通安全対策の推進						
事業内容 (経緯)	市道約616kmにおいて、区長及び市民からの通報や要望を受け、道路の修繕工事を行い原形に戻す事業です。								
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	実施事業費		千円	65,000	82,852	72,555	52,000	70,000
	②	点検パトロール回数		回	4	4	4	4	4
	③	補修工事実施数		件	69	89	70	65	70
	④								
事業対象	全市民		成果	安全で快適な生活環境の確保のため、地区からの要望や突発的な破損等に随時対応することで、より安全な通行やスムーズな道路側溝排水を確保することができます。					
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	単年度事業進捗率	単年度実施事業費÷単年度事業費	%	100	100	100	100	100	100

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	55,162	内訳				55,162

評価の視点	評価	判断基準	理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	道路は市民生活に必要なインフラであり、市民の安全を守るためにその維持・補修は必要です。	
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	事業完了後の地区住民の満足度も高く、直ぐに効果を發揮できます。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	原則原形復旧のため、十分に効率的です。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	道路施設の老朽化が進んでおり、要望等も多数あり、要望をいただいてから事業の着手までに時間を要しています。			
前年度の改善案	管理施設の老朽化に伴い、不良箇所が増加傾向にあり予算を増加して事業進捗の向上を図る必要があります。			
具体的な改善案	緊急性を考慮し、優先順位をつけ事業を実施するとともに、予算の確保に努めます。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	高度経済成長期に集中的に整備された施設は、老朽化が進み、今後も維持補修は重要であります。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 22	産業促進課	商工・観光連携

事務事業名	公益社団法人臼杵地域シルバー人材センター補助事業						新規・継続	継続	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	I - 3-7	高齢者の生きがいづくりへの支援						
	関連施策名 (施策コード)								
事業内容 (経緯)	臼杵地域シルバー人材センター運営費に対する補助金を支出するものです。 負担割合 国：1／2、市：1／2（均等割・人口割により、臼杵市・津久見市の負担額を算出）								
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	補助金交付額	シルバー人材センターに対する補助金	千円	7,631	8,118	8,169	8,330	8,417
	②	会員数	シルバー人材センターの会員登録数	人	420	445	420	425	510
	③								
	④								
事業対象	働く意欲のある高齢者		成果	高齢者の生きがいの充実と社会参加を促すとともに、豊富な知識と経験、技能を活かすことにより地域社会への貢献が図られました。					
成績指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	受託額	シルバー人材センターが受託した契約金額	千円	241,154	246,000	232,305	235,039	250,000	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	8,916						8,916

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	補助金を交付することで高齢者の就業機会を確保することにつながっています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	平成24年度より国庫補助金の減額に伴い、市補助額も大幅減額となりましたが、経費削減等の経営健全化が、事業継続に繋がっています。 しかしながら、事業規模が拡大すると民間事業者との受託金額格差が生じ民業圧迫につながる危険性があります。		
前年度の改善案	今後、国庫補助金額の増減は不透明であるので、更なる経営健全化への取組みを促し、必要な助言を行います。		
具体的な改善案	今後、国庫補助金額の増減は不透明であるので、更なる経営健全化への取組みを促し、必要な助言を行います。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	センターの労働力は需要が増えており、高齢者の生きがい対策と地域活性化の為にも引き続き支援をしていくことが必要です。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 23	産業促進課	臼杵ブランド推進室

事務事業名		うすき海のほんまもん漁業推進協議会事業						新規・継続	継続		
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	IV-11-24	安定的な水産業経営の実現						ソフト・ハード	
		関連施策名 (施策コード)								ソフト	
基本項目	事業内容 (経緯)	臼杵料飲店組合、漁業団体代表、行政等が一体となり、臼杵産魚介類のブランド化を目指し、流通・販売の支援及び広報宣伝活動を積極的に行います。また、地産地消や魚食普及を推進し「臼杵ん地魚」の美味しさを再確認してもらうことにより、臼杵産魚介類の消費拡大を図ります。今年度は「臼杵ん地魚」をPRすることを目的に毎月第4金曜日に消費拡大を図る街頭啓発活動を行いました。また、本市の水産業を広く皆様に知っていただく為に「映像」の撮影を行い、映像を各公共施設やホームページにて閲覧できるようにしました。									
	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
		① 正組合員数		漁協臼杵支店の正組合員数		人	193	192	182	176	
		② 商談会・試食会等への参加		参加回数		回	9	10	4	4	
		③									
		④									
	事業対象	漁業従事者		成果	明野アクロスの地産地消フェスタに出店を行いました。「臼杵産魚の日」街頭啓発活動では協議会委員とともに約400枚のチラシ等の販促グッズを配布しPRを行いました。						
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
		水揚げ金額		漁協臼杵支店における生産額		千円	646,381	646,465	525,893	526,042	
										647,000	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	7,306						7,306

評価の視点	評価	判断基準			理由					
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か			臼杵産魚介類を使用した料理講習等を通じPR活動を行い、臼杵産魚介類及び水産業の魅力向上に繋がります。					
		A	B:一部適応していない	C:適応していない						
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか			臼杵産魚介類の取扱い業者の増加やそれに伴う消費者による消費拡大など水産業の活性化に繋がります。					
		A	B:期待したほど効果が見られない	C:効果が少ない						
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか			予算内で映像の作製や横断幕の作製、イベントのためのチラシ作製など本市の魚介類のPRが行われていると考えます。					
		A	B:改善の余地がある	C:効率的に効果が出ない						
事業の問題・課題	臼杵産魚介類の魚価向上を図るために市外への流通が必要不可欠です。しかし、まだ、市外の方に対する消費拡大等を図る広報・宣伝体制が充分ではありません。今後とも漁業者、漁協、卸売業者等と連携を図りイベント等に参加するなど広報・宣伝の強化を行なう必要があります。									
前年度の改善案	今後とも街頭啓発活動やイベントへの積極的な参加を行い、臼杵産魚介類のPRを図り、漁協等との更なる連携の強化を行ないます。									
具体的な改善案	漁協や卸売り業者との流通体制についての協議を引き続き行います。イベントへの積極的な参加を行なうとともに、街頭啓発活動等により、市民の方に臼杵産魚介類のPRを行ないます。									

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	様々な課題が山積する中、本協議会事業により「臼杵ん地魚」のブランド化及び地産地消を継続的に進めていくことが必要です。
------	------------------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 24	産業促進課	臼杵ブランド推進室
新規・継続	新規	

事務事業名	種子島周辺漁業対策事業						新規・継続	新規	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	N-11-24	安定的な水産業経営の実現						ソフト・ハード
	関連施策名 (施策コード)								
基本項目	事業内容 (経緯)	漁協の施設整備と漁業振興を目的に、本補助金の水揚げ荷さばき施設設置事業を活用し、鮮魚運搬トラックと活魚用のろ過装置の導入を行いました。また、漁業用補給施設設置事業により地下タンクの撤去と屋外タンクの塗装及びPOSシステムの設置を行ないました。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		① 補助金交付金額	補助金交付金額	千円	-	-	-	3,722	-
		② 装置設置件数	件数	件	2	1	-	3	-
		③							
		④							
	事業対象	漁業従事者	成果	水産物の共同運搬を迅速に行えるようになるとともに、活魚としての販売にもつながります。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		水揚げ金額	漁協臼杵支店における生産額	千円	646,381	646,465	525,893	526,042	647,000

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	4,303						4,303

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	補助金を交付することで、活魚用ろ過装置の設置など漁協の施設整備が促進されるとともに、活魚販売額向上などの漁業振興にもつながります。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	魚価単価の向上につながると共に共同運搬の迅速な行動がとられ、水産業の活性化につながります。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	本補助金を使用することで本市の補助負担が軽く、また、保冷車や活魚用の循環ろ過装置等は長期的に使用できるため効果があると考えます。	
事業の問題・課題	問題・課題は特にありません。		
前年度の改善案	-		
具体的な改善案	-		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	本事業を活用し漁協施設等の整備を行うことで、臼杵港で水揚げされる魚の品質を保ち取引単価を上げていくことが出来ます。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 25	産業促進課	臼杵ブランド推進室

事務事業名		臼杵市漁業担い手育成交付金事業						新規・継続	継続	
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	IV-11-24	安定的な水産業経営の実現						
		関連施策名 (施策コード)								
基本項目	事業内容 (経緯)	漁業者の高齢化に伴い、漁業従事者数が激減しており、漁業就業者の確保が重大な課題となっています。この事業は本市において新たに漁業を開始する方が円滑に漁業に従事できるよう、就業初期段階における資金の給付を行なうことにより、漁業への就業と定着を図り、将来の水産業を担う人材を確保・育成することを目的としています。 今年度は昨年度申請のあった2名に対し定着支援の継続をしています。今年度は新たに正組合員になった2名に対し、就業奨励金の交付や定着支援の交付を行いました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	①	担い手育成交付金実績人数	後継者・新規就業者的人数	人	—	—	2	2	6	
	②									
	③									
	④									
	事業対象	漁業就業予定者	成果	昨年度の後継者2名に引き続き、今年度は新規就業者1名、漁業後継者1名が新たに誕生しました。						
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
		担い手育成交付金額	交付金額	千円	—	—	2,400	4,200	5,880	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	10,006						10,006

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	漁業従事者が減少しており、新たに漁業従事を検討している方に対し、本交付金制度は必要であると考えられます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	昨年度に引き続き、今年度も2名の新規就業者就業者及び漁業後継者が誕生しており、水産業の振興が図ることが出来ていると考えられます。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	限られた予算内で3つの事業(定住支援、就業奨励金、定着支援)を行なうことで、今年度も新たな漁業従事者が誕生し、効果があったと考えます。

事業の問題・課題	移住希望者等の市外からの新規就業者に対する受け入れ態勢がまだ確立できておりません。		
前年度の改善案	漁協や県と市外の方を対象に市内での水産業に従事できるよう協議を重ねました。		
具体的な改善案	漁協臼杵支店及び県と受け入れ態勢についての協議を今後とも重ねていくことで改善に繋がると考えます。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	漁業就業者が減少していく中、後継者が育ちやすい環境整備によって漁業人口を維持していくことが必要です。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 26	産業促進課	商工・観光連携

事務事業名		がんばる商店街総合支援事業						新規・継続	継続		
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	V-1O-19	商業の経営基盤強化及び中心市街地活性化						ソフト・ハード	ソフト
		関連施策名 (施策コード)									
		事業内容 (経緯)	商店街全体の商業集積としての魅力の向上を図るために、繁盛店を増やすための取組や魅力ある店づくり等の商店街に求められている社会的課題に対応した取組等に対して支援しました。 大分県がんばる商店街総合支援事業による商店街活性化事業（補助率：県 1/3、市 1/3） 実施主体：中央通り商店街振興組合「チャレンジショップ整備事業」 （株）まちづくり臼杵「臼杵まちゼミ事業」 平清水商店街「赤猫」発祥の商人町イメージ定着化事業								
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値		
		① がんばる商店街総合支援事業 実績件数	事業実績件数	件	H26	H27	H28				
		②									
		③									
	④										
事業対象	商業者	成果	商店街の魅力向上や来客者数の増加につながり、商店街地域の新たな賑わいづくり及び活性化が図られました。								
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値			
	商店街の来街者数	1日あたりの商店街来街者数	人	H26	H27	H28					

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	2,593			1,150			1,443

評価の視点	評価	判断基準		理由						
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		商店街の魅力向上させ、来街者及び個店の売上が増加することにより、市内商業の振興及び中心市街地の活性化が図られるため、必要な事業であると考えられます。						
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない								
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		来街者及び個店の売上増加により市内商業の振興が図られます。							
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない								
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		昨年より単位あたりのコストが増加しているため、改善の余地があると考えられます。							
	B	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない								
事業の問題・課題	商店街の空き店舗増加や後継者不足、売上の減少などが全国的な課題となっています。 商店街で一過性のイベントを実施すると、来街者は増えるものの、買い物客は少なく大幅な売上増にはつながらないという問題点があります。									
前年度の改善案	商店街活性化のためには一過性のイベントを実施するだけではなく、個店の魅力を知ってもらうための継続的な事業を実施し、平常時の来街者、売上を伸ばすための取組みが必要です。									
具体的な改善案	人口減少社会において域内での消費には限界があるため、域外からの誘客と消費を呼び込む取組に対して支援を行っていきます。									

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	商店街の独自性ある取組を継続的に支援することは、商店街への誘客のみならず、まちなかの賑わい創出につながります。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 27	産業促進課	商工・観光連携
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名		臼杵市まちんなか空き店舗等活用事業						
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	N-1O-19	商業の経営基盤強化及び中心市街地活性化				
事業内容 (経緯)		市内商店街地域の活性化を図るために、空き店舗又は空き家を有効活用し、商業振興、地域振興を図る事業者に対し、店舗の内装費、外装費、広報費及び家賃に対し助成を行いました。						
基本項目	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移	
		① 補助金交付金額		補助金交付金額		千円	H26	H27
		②						
		③						
		④						
事業対象	成果指標	商業者		成果	今年度は3店の空き店舗が活用され、市内中心部の新たな賑わいづくり及び活性化が図られました。			
		指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移	
		空き店舗活用件数		対象地域内における補助金を利用した空き店舗活用の件数		件	H26	H27
H29 実績値	H31 計画値							

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	2,429						2,429

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	新規出店者への助成を行うことで、商店街及び中心市街地の活性化につながっています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	新規出店者が商店街組合、商工会議所等の団体に加入することにより経済効果だけでなく、まちづくりの活性化にも寄与しています。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	創業支援事業と併せ、新規出店者に対する効率的な事務事業の執行が図られていると考えられます。	
事業の問題・課題	本事業による空き店舗活用数以上に、対象地域の空き店舗数が増加しているのが課題です。		
前年度の改善案	所有者が貸す意思のない空き店舗を貸していただけるよう、協議をしていきます。 引き続き、市報、CATV等、異なる広報等を行い利用促進を促します。		
具体的な改善案	空き店舗活用の促進が図られるよう、制度の改正を行います。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	商店街に空き店舗が増えてきており、本事業活用により空き店舗数を減らし、中心市街地の活性化を図ることは重要な課題です。
------	------------------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 28	産業促進課	商工・観光連携
新規・継続	新規	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名		臼杵市ものづくり産業促進事業							新規・継続		新規	
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	IV-1O-2O	地場企業の育成・企業誘致							ソフト・ハード	ソフト
関連施策名 (施策コード)		IV-1O-19	商業の経営基盤強化及び中心市街地活性化									
基本項目		事業内容 (経緯)										
		行動指標		指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
				① 補助金交付金額	補助金交付金額		千円	-	-	-	10,768	15,000
				②								
				③								
				④								
		事業対象		市内の製造業を営む中小企業者		成果	今年度は8件の中小製造業が本事業を活用し、生産拡大や効率化を図るために新規設備の導入や、販路拡大のための商談会への出展を行いました。					
		成果指標		指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
				補助金活用件数	本事業の補助金を活用した中小企業者数		件	-	-	-	8	10

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	10,341					9,000	1,341

評価の視点	評価	判断基準		理由					
	目的が市民ニーズに照らして妥当か		必要性						
A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない				本事業により市内製造業者の積極的な設備投資につながるとともに、市内業者に発注させることで地域経済の活性化にも寄与しています。					
目的や目標に照らして予想される効果が得られるか				有効性					
A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない									
行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか									
A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない			効率性						
行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか									
A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない									
事業の問題・課題	今年度における問題点は特にありません。 本事業を活用した中小企業が今後も成長し続けていくよう、定期的なヒアリング等が必要であると考えます。								
前年度の改善案	-								
具体的な改善案	今年度と同様に本事業を活用してもらえるよう商工団体と連携を図るとともに、市報等で周知を図ります。								

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	市内の主産業である製造業の設備投資を支援することで、本市経済の活力を生み出すことが出来ます。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 29	産業促進課	商工・観光連携
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名		サーラ・デ・うすき管理・運営事業						新規・継続	継続						
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	V-1O-19	商業の経営基盤強化及び中心市街地活性化												
	関連施策名 (施策コード)														
基本項目	事業内容 (経緯)	サーラ・デ・うすきは、「臼杵の台所」を基本コンセプトに「臼杵の食」についての情報発信を行い、中心市街地の賑わい創出施設として、季節に応じたイベントや装飾、料理講座など行いました。													
	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値						
		① 臼杵オープンラボの利用状況		利用者数		人	-	-	140						
		② つまみキッチンの利用状況		利用者数		人	-	-	268						
		③													
		④													
	事業対象	市民及び観光客		成果	臼杵の伝統料理の継承や魚のさばき方、お菓子作りなどの料理講座を行うことにより、サーラ・デ・うすきのPRや食の情報発信を行うことができました。										
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値						
		来場者数		サーラ・デ・うすき 来場者数		人	67,725	53,865	47,204						
									70,000						

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	31,799					3,473	28,326

評価の視点	評価	判断基準		理由		
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か				
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		中心市街地に位置し、市民や観光客にぎわいづくりや食に関する情報発信をする必要があります。また、臼杵の農産物や水産物を食べることができるレストランも必要があります。		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		料理講座などの取組みからリピート客ができつつあるが、若者世代が少なく、若者世代が利用する取込みに力を入れたい。また、臼杵の食を楽しめる取り組みをレストランと一緒にできるように取り組みたいです。		
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		季節によっては、催しがない期間が2週間ほどあるときがあるので、市主催の催しのほか他団体が行う催しを誘致するなどして、常に賑わいが生まれる施設にしたいと考えています。		
事業の問題・課題	料理講座でのアンケート結果よりサーラ・デ・うすきでイベントなどを行っているという市民への認識は定着しつつあると感じていますが、個人で臼杵オープンラボやつまみキッチンを利用する人が少ない状況にあります。					
前年度の改善案	サーラ・デ・うすきのあり方や活用について検討するために、今年度サーラ・デ・うすき活用検討会を行いました。引き続き活用検討会を開催し、内容に基づき施設等整備を行います。					
具体的な改善案	臼杵オープンラボやつまみキッチンの使い方や活用の仕方を市民の方に知つてもらうように取組んで、活用する一歩をふみだせるようなアプローチを行っていきたいです。また施設の職員などと活用検討会を設け、協力し合いながら運営を続けていきます。					

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	サーラ・デ・うすきを拠点とし、まちなかの賑わい創出と中心市街地の活性化を図っていく必要があります。
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 30	産業促進課	商工・観光連携
新規・継続	産業促進課	商工・観光連携

事務事業名	中小企業振興資金預託事業					新規・継続 ソフト・ハード	継続 ソフト		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-10-20	地場企業の育成・企業誘致						
	関連施策名 (施策コード)	IV-10-19	商業の経営基盤強化及び中心市街地活性化						
基本項目	事業内容 (経緯)	臼杵市中小企業振興資金融資要綱に基づき、中小企業振興のため市内金融機関に対し無利子にて預託を行い、預託金を貸付原資として、預託金の4倍相当額の融資を中小企業に行いました。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
		① 融資実績件数	融資件数	件	0	4	2	10	
		②							
		③							
		④							
	事業対象	中小企業	成果	平成29年度は市内金融機関より2件の中小企業振興資金融資が行われ、中小企業の金融支援・経営の安定化が図られました。					
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値		
	融資実績額	融資金額	千円	0	25,000	13,200	9,700	80,000	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	40,559						40,559

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	中小企業の経営安定のため、金利も低く、利用しやすい融資制度は必要だと考えられます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	2件、9,700千円の融資実績があったため、有効であったと考えられます。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	金融機関に預託を行うことで、融資の審査及び実行は金融機関が行うため、効率的な運営が図られていると考えます。また、預託金は年度末に歳入として同額が市に戻ってくるため、実質の直接経費は0円です。
事業の問題・課題	中小企業への融資件数はリーマンショック後の不況時に比べ減少しています。さらに利用しやすいよう融資条件の変更を検討する必要があります。 平成29年度より創業者を対象とした融資制度を創設しましたが実績は0件でした。		
前年度の改善案	各金融機関との連携を図り、情報交換及び要望把握に引き続き努めます。 平成29年度より創業者を対象とした融資制度を創設予定です。		
具体的な改善案	各金融機関との連携を図り、情報交換及び要望把握に引き続き努めるとともに、利用しやすい融資条件について検討します。 また、創業者に対し、創業者を対象にした融資制度について周知を図ります。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	本市の中小企業の設備投資や運転資金の調達を円滑に行っていくために必要です。
------	---------------	----	---------------------------------------

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 31	産業促進課	商工・観光連携
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名		企業立地促進事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	V-1O-20	地場企業の育成・企業誘致						
	関連施策名 (施策コード)								
基本項目	事業内容 (経緯)	企業立地促進条例に基づき、企業の立地及び設備投資を促進し、産業の進行及び雇用拡大を図ることを目的に助成措置を講じました。							
	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値
		① 企業立地条例に基づく助成		助成件数		件	4	2	2
		② 地場企業への訪問		訪問件数		社	4	6	21
		③							
		④							
	事業対象	市内立地企業及び増設企業			成果	企業の設備投資に対し助成を行うことで、産業の振興及び雇用機会の拡大が図られました。			
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値
		企業立地促進条例に基づく助成		助成実績額		千円	10,104	20,000	10,100
									20,000

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	13,906				10,000		3,906

評価の視点	評価	判断基準			理由								
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か			国内での企業誘致環境は厳しい状況となっている中、企業の設備投資や規模拡大などを検討している企業に魅力を感じてもらえる助成制度は必要であると考えられます。								
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない											
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか			企業の進出、増設により、産業の振興及び雇用の拡大が図られます。								
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない											
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか			助成を受けるためには市民の雇用を創出することが必須となるため、地場企業の強化以外にも雇用創出ができているため、適切だと考えています。								
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない											
事業の問題・課題	企業立地促進助成金の目的の一つに、雇用拡大があります。職種にもよりますが、新設3名、増設1名を確保することができずに、助成金を交付できない場合があります。												
前年度の改善案	県等の関係機関と連携を図り、企業誘致等の情報収集及び要望把握に努めます。												
具体的な改善案	引き続き、県等関係機関と連携を図り、情報収集及び要望把握に努めるとともに、これまで以上に中小企業が活用しやすい制度にしていきたいと考えます。また、移住定住の施策などとも関連して、雇用拡大についても検討していきたいと思います。												

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	地元雇用の拡大と本市の産業振興の為、本事業による継続した支援策を行っていく必要があります。
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 32	産業促進課	商工・観光連携
新規・継続	新規	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名		臼杵市創業支援事業						新規・継続	新規
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-1O-2O	地場企業の育成・企業誘致						
	関連施策名 (施策コード)	IV-1O-19	商業の経営基盤強化及び中心市街地活性化						
事業内容 (経緯)	創業及び創業者の成長を促進するため、新たに創業する人に対し創業時に必要な初期費用の一部を助成しました。また、創業希望者等を対象とした、創業支援事業計画に基づく特定創業支援事業（創業支援セミナー）を開催しました。								
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	補助金交付金額	補助金交付金額	千円	-	-	-	4,977	5,000
	②	創業支援セミナー参加者数	創業支援セミナー参加者数	人	-	-	-	27	30
	③								
	④								
事業対象	創業者		成果	今年度は6件の創業者が本事業の補助金を活用し、起業しました。					
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	補助金活用件数	本事業の補助金を活用した創業者数	件	-	-	-	6	10	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	5,980				4,000		1,980

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	創業支援セミナーにより創業人材を育成するとともに、創業時に必要な初期費用の一部を助成し市内業者に発注することにより、地域経済の活性化にも寄与しています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	本事業において創業と創業後の成長を促進することにより、産業振興及び経済の活性化並びに雇用の創出につながっています。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	まちなか空き店舗等活用事業と併せ、創業者に対する効率的な事務事業の執行が図られていると考えられます。	
事業の問題・課題	創業直前に相談に来る案件が多いため、もっと事前に相談に来もらえるように周知を図る必要があります。 また、本事業を活用した創業者及び企業が今後も成長し続けていくよう、定期的なヒアリング等が必要であると考えます。		
前年度の改善案			
具体的な改善案	商工団体、金融機関と連携するとともに、市報やCATV等で本事業の周知を図ります。 また、まちなか空き店舗等活用事業と連携し、空き店舗の利用促進を図ります。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	移住者をはじめ創業に意欲ある方が増えており、今後も創業に係る支援対策を行っていく必要があります。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 33	産業促進課	商工・観光連携
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名		商工組合中央金庫（商工中金）貸付事業									
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	IV-10-20	地場企業の育成・企業誘致							
		関連施策名 (施策コード)	IV-10-19	商業の経営基盤強化及び中心市街地活性化							
基本項目	事業内容 (経緯)	国の中小企業政策の一翼を担う政府系金融機関である商工組合中央金庫に対し、安定した事業資金を市内中小企業者に円滑に提供することを目的として貸付けを行いました。									
	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
	①	融資実績件数		融資件数		件	26	35	28	30	35
	②										
	③										
	④										
	事業対象	中小企業		成果	平成29年度は商工中金より30名に融資を行い、市内中小企業の金融支援・経営の安定化が図られました。						
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
		融資実績額		融資金額		百万円	3,616	3,917	3,296	3,500	4,000

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	8,559						8,559

評価の視点	評価	判断基準			理由								
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か			商工中金は中小企業に対して有利な条件で融資を実行しています。また融資することで、中小企業の経営が安定し、雇用等の効果が期待できます。								
有効性	A	A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない											
	B	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか			中小企業の経営の改善や資金繰りのための融資が実行され、経営の安定が図られています。								
効率性	C	A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない											
	A	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか			商工中金に対し貸付を行うことで、貸付金の数倍以上の金額が市内企業へ融資されています。								
事業の問題・課題	平成29年に発覚した商工中金の大規模な不正融資問題を踏まえ、商工中金の完全民営化については、今後4年間で経営改革を進めたうえで完全民営化が可能か判断するようになったため、今後の動向に注視が必要です。												
前年度の改善案	県や各市町村と連携し、商工中金に関する情報の把握に引き続き努めています。												
具体的な改善案	県や各市町村と連携し、商工中金に関する情報の把握に引き続き努めています。												

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	本市中小企業の経営の安定につながっており、不安定な経済状況の中、継続していく必要があります。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 34	産業促進課	商工・観光連携
新規・継続	新規	

事務事業名		臼杵市小規模企業者新規展開事業							新規・継続	新規
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	IV-1O-19	商業の経営基盤強化及び中心市街地活性化						
		関連施策名 (施策コード)	IV-1O-20	地場企業の育成・企業誘致						
基本項目	事業内容 (経緯)	市内の卸売業・小売業・飲食サービス業を営む中小企業の設備投資の促進及び経営基盤強化を図ることを目的に、新規展開や機能向上につながる店舗の改修や設備の更新等に対しその費用の一部を助成しました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	①	補助金交付金額	補助金交付金額	千円	-	-	-	3,393	10,000	
	②									
	③									
	④									
	事業対象	市内の卸売業・小売業・飲食サービス業を営む中小企業者	成果	今年度は6件の中小製造業が本事業を活用し、新規顧客の獲得や効率化を図るために行う新規設備の導入を行いました。						
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
		補助金活用件数	本事業の補助金を活用した中小企業者数	件	-	-	-	6	10	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	3,864					3,000	864

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	本事業により市内商業・サービス業の積極的な設備投資につながるとともに、市内業者に発注させることで地域経済の活性化にも寄与しています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	大企業と中小企業の成長に格差が生じている中、本事業により中小企業の成長が促進され、是正が図られていると考えます。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	想定よりも申請件数が少なかったため、商工団体や金融機関と連携し広報の強化を図る必要があります。	
事業の問題・課題	想定よりも申請件数が少なかったのが課題です。 また、本事業を活用した中小企業が今後も成長し続けていくよう、定期的なヒアリング等が必要であると考えます。		
前年度の改善案	-		
具体的な改善案	より多くの企業に活用してもらえるよう、商工団体と連携を図りながら、市報やCATV等で更なる周知を図ります。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	各小規模企業者の魅力の創出による顧客拡大や事業継続にもつながっています。
------	---------------	----	--------------------------------------

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 35	産業促進課	臼杵ブランド推進室
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名	臼杵市ブランド開発支援事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-25	うすきブランドの開発と6次産業化の推進					
	関連施策名 (施策コード)							
基本項目	事業内容 (経緯)	臼杵市の農林水産物等の地域資源を活用した安心安全で魅力ある特産品の開発、加工、販売や販路拡大などの主体的な取り組みを支援することにより、特産品のブランド化、地産地消の促進等地域産業の活性化を図ることを目的として補助金の交付を行います。						
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値
	①	新商品開発の個数	新たに研究開発された試作品及び商品の個数	個	-	8	13	10
	②							
	③							
	④							
	事業対象	農林水産加工等を行う組織、食品加工業者など	成果	今年度は、研究開発支援事業に1件、商品化促進支援事業に1件、商品化促進支援事業から販売力強化支援事業までを一括して実施した2件がこの事業を活用し、研究開発品が1品、新たに9品が商品化されました。				
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H31 計画値
		臼杵ブランド認証	臼杵市のブランド認証制度による特産品のブランド認定の数	件	-	-	-	43
								60

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	5,374						5,374

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	新たな特産品の開発を目指す事業者には、非常に取り組みやすい事業です。また「臼杵ブランド」として新たな特産品を生みだすには必要な事業です。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	新たな特産品開発に取り組む事業者が多く、これからさらに事業にチャレンジする事業者も期待されます。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	既存の商品に対しても使えるよう、補助金制度の改善など事業者に対し充実した制度に改善できる余地があります。	
事業の問題・課題	新商品開発のための補助制度だけではなく既存商品の改良に対する補助制度も検討する必要があります。 臼杵ブランド認証「うすきの地もの」と連動した補助制度の確立が必要です。		
前年度の改善案	事業者と臼杵市が連携し、商談会へ参加し販路の確保やブランド化に取り組みます。		
具体的な改善案	開発段階から事業者と連携を密にして、より魅力的で売れる商品の開発に取り組みます。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	臼杵ブランド「うすきの地もの」の認証基準に合致した商品を産み出し、臼杵ブランドを強化していく必要があります。
------	------------------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 36	おもてなし観光課	観光

事務事業名	うすき竹宵事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-9-17	観光資源の活用・創出による地域活性化					
	関連施策名 (施策コード)	IV-9-18	歴史・文化遺産の活用による観光産業の発展					
事業内容(経緯)	市内中心部の二王座歴史の道や歴史文化的な景観などを、竹ぼんぼりや趣向をこらしたオブジェが幽玄的に映し出す「うすき竹宵」は、今年で21回目を迎ました。秋の城下町に映し出される竹灯りは、来訪者の心を引付けます。大分県を代表する祭りとして、中心市街地の活性化はもとより観光産業全体への活力につながります。 今年度のうすき竹宵は、ぼんぼり約2万本、オブジェ26か所、般若姫行列等を中心に実施しました。天候にも恵まれ、来客数は9万5千人を動員しました。							
行動指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値
①	竹宵実行委員会会員の確保	実行委員会会員数		人	121	122	124	126
②								
③								
④								
事業対象	来場者、ボランティアスタッフ	成果		多くのスタッフで企画、運営することで会員数が増加しました。実行委員会の継続的且つ安定的な運営により、多くの来場者をお迎えできています。				
成果指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値
	来場者数	開催エリアの来場者数		万人	9.5	9.0	11.0	9.5
								9.5

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	14,280						14,280

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	「うすき竹宵」は、臼杵市の誇れる大きなイベントであり、経済効果や地域の活性化に必要不可欠なものになっています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	多くの観光客が訪れ、特に地元商店街など地域の活性化には効果があります。また、使用された竹材は堆肥の原材料や竹炭として再利用されていることから、循環型社会構築の一翼を担っています。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	補助金と協賛金により運営されていますが、来場者による宿泊や飲食などにより、市内での経済効果は、行政資源量以上の効果があると考えています。
事業の問題・課題	実行委員会全体の会員数は維持していますが、主体となって活動する会員(特に若手)が不足しています。人材確保・育成に取り組み次世代へ繋がる組織づくりが必要です。		
前年度の改善案	若手会員の活躍できる場面が必要です。委員長経験者や部会長経験者が各部会に補助役として残り、担当者を補助できる体制を整備します。来年度は21回の新たなスタートとして、多くの市民が竹宵に携わりやすい環境を構築します。		
具体的な改善案	オブジェ制作団体が減少していく中で、制作団体や実行委員を広く募集するためにも、HPやSNSなどの活用が必要となります。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	官民協働で開催される本市最大のイベントで、市内外から集客力を誇る事業であり、経済効果や地域の活性化には必要不可欠です。
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 37	おもてなし観光課	観光グループ

事務事業名	臼杵市観光交流プラザ管理運営事業						新規・継続	継続		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-9-17	観光資源の活用・創出による地域活性化						ソフト・ハード	ソフト
	関連施策名 (施策コード)									
基本項目	事業内容 (経緯)	臼杵市観光交流プラザは、臼杵市全体の魅力を情報発信する役割を担っており、観光客が最初に立ち寄り情報を受け取る場所、また市民も集い交流できる中心市街地のにぎわいの場所となっています。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
		① SNS等を使った情報発信数	FBへの書き込み数	回	138	310	130	80	150	
		② イベントの開催数	特産品のPRを中心としたイベント実施数	回	75	62	75	81	80	
		③ うすきあるきの定期的開催数	開催数	回	1	25	76	30	50	
		④								
	事業対象	観光客、来訪者	成果	観光客への詳細な情報提供を行うとともに、週末を中心に臼杵のPRに関するイベント等を開催することで、中心市街地のにぎわいの創出ができました。						
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
		プラザの来館者数	来館者	人	53,666	54,774	55,687	47,395	50,000	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	24,114					435	23,679

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	観光客の玄関口としての役割を果たすとともに、隠れた資源の発表の場、またギャラリーでの展示など、中心市街地の賑わいを創出する役割も果たすなど、臼杵の観光における必要性は高いです。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	観光客へのきめ細やかな情報提供を行うため、コンシェルジュを配置して親切な情報発信が出来ました。また、本市の特徴である食を中心に特産品のPRや、イベントを開催することで、中心市街地のにぎわいの創出につながりました。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	展示会などの開催による貸館等の使用料収入は年々増えてきています。中心市街地に経済波及効果のあるイベント企画が必要と考えます。
事業の問題・課題	中心市街地全体が活性化し、経済が潤うような仕掛けづくりの観点から、商店街を含めた街中のの方々、料飲店組合、観光情報協会、商工会議所等の関係機関にも積極的に参加していくべく創意工夫が必要であると考えます。また、今後は2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピックを控え、外国人観光客がさらに増加する見込みであることから、インバウンド対策にも力を入れていかなければなりません。		
前年度の改善案	「臼杵市観光交流プラザ」と平成28年10月にリニューアルオープンした「サーラ・デ・うすき」の両施設を拠点施設とし、集客力を高め、中心市街地を回遊していただく事業を展開していきます。また、相互のSNS等を使った情報発信を強化していきます。		
具体的な改善案	情報発信による知名度のアップにあわせて、観光地としての魅力も向上させていかなければなりません。特に観光交流プラザは臼杵観光の拠点であることから、来訪者の再来訪意欲を高めるための情報収集を積極的に行います。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	旅先で一番必要な本市の観光を中心とする情報を集約し発信する観光客が立ち寄りやすい町歩きの拠点として必要です。
------	------------------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 38	おもてなし観光課	観光グループ

事務事業名	臼杵市観光情報協会補助事業						新規・継続	継続		
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	IV-9-17	観光資源の活用・創出による地域活性化						ソフト・ハード	ソフト
	関連施策名(施策コード)	IV-9-18	歴史・文化遺産の活用による観光産業の発展							
基本項目	事業内容(経緯)	臼杵市観光情報協会は、インバウンドの対応をはじめとする交流人口の増進を図るべく、臼杵市の魅力を発信するため各方面へ積極的なPR活動などを行っています。また、観光客受入れのための各種施策を協会員とともに立案しており、この事業は、その活動を補助するものです。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	①	エージェントへの誘致活動数	エージェントへのツアー造成交渉回数	回	70	40	49	63	80	
	②	メディアへの情報提供数	メディアへの観光情報提供回数	回	200	480	2,352	1,458	2,500	
	③									
	④									
	事業対象	エージェント・メディア・観光客	成果	不在であった協会事務局長が着任し、事務局体制が整い、これまで以上に誘客活動に取り組みました。メディアへの情報提供を積極的に行い、大分県臼杵市が広く周知され、観光客数を取り戻すことにつながりました。						
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
		各施設の入込数（石仏、下屋敷、吉丸、野上、サーラ）	1年間の各施設に訪れた観光客数 5施設	人	202,909	200,698	169,344	192,166	220,000	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	20,066						20,066

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	今年度から「活力向上委員会」による協会会員自ら施策を立案する組織ができ、観光客や交流人口の増加をめざし、新規事業の実施ができました。また、エージェントなどへの、営業活動も積極的に行いました。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	多くの観光客の宿泊先は、別府、湯布院となっているため、この観光客に、臼杵市まで来ていただける仕組みを、早急に構築しなければなりません。また、今後ますます増加すると予測される外国人観光客への対策を検討する必要があります。さらに、協会の自主事業を実施していくための自主財源の確保も課題です。		
前年度の改善案	事務局体制の強化が必要なため、不在である事務局長の早期着任を働きかけます。また、臼杵の魅力である「食」を中心に、観光情報協会が主体となり、関係団体と連携し「チーム臼杵」として、情報発信を強化しなければなりません。		
具体的な改善案	別府、湯布院の宿泊施設へ、さらなる営業活動を行い、パンフレット、ポスターなどを掲出していただく取り組みや、広域回遊ルートの設定ができるよう取り組む必要があります。また、協会会員へ、研修会や説明会を実施することにより、インバウンド対応にむけた「意識付け」の取り組みも必要です。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	イベントの実施において、行政との業務のすみ分けを行い、最終的には観光情報協会自体がマーケティング機能を有し県内外のプロモーションを行い、自ら稼ぐ力をつけていくための支援は必要です。
------	------------------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 39	上下水道管理課	総務グループ
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名		浄化槽設置費整備事業（個人設置）						新規・継続	継続
総合計画 との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-18-45	生活排水処理対策・浸水対策の推進						
	関連施策名 (施策コード)	VI-18-43	快適な住環境の確保						
事業 内容 (経緯)	公共用水域の水質保全・生活環境の改善などを目的とした生活排水対策の一環として補助事業を行っています。平成27年度からは県の上乗せ補助制度を活用し、補助金額の上乗せを行っています。（補助実績 H26：27基 H27：70基 H28：84基 H29：65基）下水道等の集合処理施設の整備計画がない地域で、単独浄化槽又は汲み取りから合併処理浄化槽へ設置換へ設置換を行った家庭に対して、設置した浄化槽の人槽に応じて予算の範囲内で補助金を交付しています。								
行動 指標 基本 項目	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	H26	H27	H28						
①	浄化槽設置基数	補助金を活用して設置した浄化槽の累積設置基数	基	1,476	1,546	1,630	1,695	1,930	
②	浄化槽設置普及促進活動の回数	浄化槽を普及するための啓発活動の実施回数（H29年度より指標追加）	回	-	-	-	3	3	
③									
④									
事業 対象	集合処理施設の区域外の地域住民	成果	合併処理浄化槽を設置することにより、生活排水を処理し、公共用水域の水質保全・生活環境の改善が図られます。今年度は65基分に対して補助金を交付しました。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	H26	H27	H28						
	生活排水処理率	汚水処理人口÷全人口	%	64	65	66	67	71	

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	37,507		16,215	12,187	7,300		1,805

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	公共用水域の水質保全・市民の生活環境の改善及び生活排水処理率向上のために浄化槽設置は必要です。設置にかかる各家庭の経済負担は大きいため、補助金制度で負担軽減を図れます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない	補助金制度により、単独浄化槽および汲み取り便所から合併浄化槽への転換が促進されます。また、公共用水域の水質保全・生活環境の改善が図られます。	
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない	浄化槽は短期間で設置が可能であり、家屋が点在している集落等では下水道整備に比べ効率的です。地震にも強く、適正な維持管理を行えば、下水道と同程度の処理能力を有しています。
事業の問題・課題	補助金額を超える費用等は個人負担であるため、設置換え工事の実施について慎重になる家庭が多いです。水質汚濁防止のために生活排水処理が必要であることや、設置換え工事には上乗せ補助制度を活用できることを広報する必要があります。また、上乗せ補助制度は条件付き（住民説明・環境保全活動・広報掲載・関係団体説明会を行うこと）で継続されることとなったため、条件達成のための取り組みを行う必要があります。		
前年度の改善案	引き続き、大分県が実施している浄化槽上乗せ補助制度を活用するとともに、市報等を利用した積極的な啓発・広報活動を行い、生活排水処理率向上に努めます。また、平成29年の年度途中から工事完了及び実績報告書の提出期限が県補助金の関係で短くなったことによる申請辞退が数件ありました。今後は、施工時期や書類提出についても早い時期からの呼びかけを積極的に行います。		
具体的な改善案	浄化槽補助金制度についての説明会を対象地域で行い、下水道の日キャンペーン時にはチラシ配布を行います。また、市報等を利用した積極的な啓発・広報活動を行い、生活排水処理率向上に努めます。併せて、県の上乗せ補助制度の維持を要望していきます。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する（重点継続）	理由	集合処理地域以外の生活環境の改善や河川の水質汚濁防止、更に生活排水処理率の向上には、本事業の実施が必要不可欠です。また、啓発活動を強化することで本制度の積極的な利用促進を図っていく必要があります。
------	------------------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
D - 40	上下水道工務課	下水道工務グループ
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	一般下水路新設改良事業						新規・継続	継続	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-18-45	生活排水処理対策・浸水対策の推進						
	関連施策名 (施策コード)								
事業内容 (経緯)	地区からの要望箇所の中には、延長が長い箇所もあり地区に2ヵ年施工での完成に同意をもらう事と併せてコストダウンを図り5地区の整備ができました。								
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		① 整備個所数	整備がされた箇所数	箇所	H26	H27	H28	5	7
		②							
		③							
	④								
事業対象	公共下水道計画区域外	成果	地区住民の生活環境整備の改善と降雨時における雨水排水機能の向上が図られました。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	整備個所数	整備済みの箇所（累計値）	箇所	H26	H27	H28	254	259	266
							271	278	

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	7,513						7,513

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	公共下水道整備区域外の地区においては、生活排水と雨水兼用の水路が多く、断面も小さく、勾配も取れていない状況で衛生面や雨水対策としても要望が多く必要な事業です。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない	排水路が整備されれば、スムーズな流れになり臭気等が解消され生活環境の向上に有効性が高いと考えます。	
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない	整備された排水路は、将来的に合併浄化槽処理水の重要な排水路として活用でき効果的と考えます。	
事業の問題・課題	公共下水道整備計画区域外の地区においては、生活排水と雨水兼用の水路が多く、断面不足や勾配が取れていない状況から臭気等が発生し衛生面からも水路の改良要望が多く、毎年度の施工力所より要望箇所が多いのが実情です。		
前年度の改善案	蓋設置の要望については、原材料支給で対応し区民により設置をお願いしています。水路改良の要望箇所は作業スペースが狭く人力施工になる事が多く、地区に協力ををお願いし機械施工によりコスト縮減を図りました。		
具体的な改善案	本事業は、市の単独費で行っており過去に比べて施工力所数が減少していることから、地区からの要望書においても地区に偏りが多いため整備の優先順位を決めて多くの地区を整備する必要があります。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	本事業の実施により周辺部の生活環境の改善は図られていますが、生活排水等の改善を要する地区があり事業の継続は必要です。
------	---------------	----	--